

23rd International Seaweed Symposium 参加記 井上幸男

International Seaweed Symposium (ISS) は、世界各国から藻類学の研究者が集う国際会議です。International Seaweed Association (ISA) により、3年ごとに開催され、ISS 第23回大会が2019年4月28日から5月3日の6日間、韓国の済州島 International Convention Center (ICC) で開催されました。今大会には、41ヶ国から796名、その内日本から35名が参加し、活気あふれる大会となりました。

講演は、Plenary lectureが5題、口頭発表が346題、ポスター発表が259題でした。Plenary lectureでは、韓国、ドイツ、イギリス、フランス、アメリカの著名な藻類研究者が講演を行いました。本大会は、Chungnam National University 名誉教授であられる Sung Min Boo 博士の Plenary lecture から開幕し、「Beautiful and familiar seaweeds in Jeju Islands: diversity and distribution」という演題で講演されました。開会式では、本大会会長及び韓国藻類学会会長の Jeong Ha Kim 博士 (Sungkyunkwan University) が挨拶され、その後、済州島で古くから盛んである素潜り漁にまつわるミュージカルが行われました。口頭発表は、Mini Symposium と Oral



懇親会の様子

session から構成され、類似した研究テーマごとに会場が設けられていました。私は、藻場の光合成速度に対する流速の影響について口頭で発表しました。初めての国際学会の口頭発表で非常に緊張しましたが、発表後も私の研究について、他の研究者の方と議論することができ、素晴らしい経験となりました。ポスター発表は、大会期間を通じて展示され、大会2日目と5日目には、Poster session が設けられました。私の研究テーマは、海藻の光合成と流動であることから、現場環境下で流動と藻体内の栄養塩濃度の関係を調べたポスターに興味を引かれ、大会期間中は何度もそのポスターの前で、自身の研究に思いを巡らせました。また、ポスター会場には、素材が全て褐藻類から作られたドレスが展示されており、自由な発想に驚かされました。更に、本大会ではフォトコンテストが開催され、私の研究室から投稿した写真も2枚、フォトコンテストの会場に展示して頂きました。写真は、世界各地の海藻(草)の写真や、実験、調査の風景など様々で、全世界で藻類の研究が行われていることを改めて実感しました。大会5日目の懇親会では、豚の丸焼きなど素晴らしい料理を堪能しました。懇親会の最後には、皆さんとダンスを踊り、心の底から楽しいひと時となりました。

本大会では、研究テーマは多岐にわたっており、発表を聞くたびに新しい発見があり、自身の研究に関する思い込みをほぐすとても良い機会となりました。更に、多くの研究者と議論することで、研究の楽しさ、自由さを再確認すると共に、自身の未熟さも知ることができました。この経験を自身の殻を破る糧とし、3年後に開催される ISS に向けて、精進したいとおもいます。次回の ISS は2022年1月30日~2月4日にオーストラリアのタスマニア島 Hobart で開催されます。最後に本大会を主催、運営してくださった方々に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

(長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科)



ポスター発表会場に展示された褐藻類から作られたドレス